別紙（様式２－１関係）について

別紙（様式２－１関係）については、下記のパターン分けの方法と次頁からの記入例を参考に、①～⑤のパターンに分けて記入してください。

**①医療従事者が１人で分娩を取り扱う場合**

**（１分娩あたり１人のみに分娩手当を支給する場合）⇒パターン①**

【例】・A医師（20,000円）

パターン①に記入してください。

　　　 ・B医師（10,000円）

　　　 ・C助産師（5,000円）

**②２人以上の医療従事者が分娩を取り扱い、支給する手当金額の合計が10,000円を超える場合**

**（１分娩あたり２人以上に分娩手当を支給し、その合計が10,000円を超える場合）⇒パターン②**

　【例】・A医師（20,000円）＋D医師（15,000円）

　 　　・A医師（20,000円）＋B医師（10,000円）

　 　　・D医師（15,000円）＋C助産師（5,000円）

パターン②に記入してください。

　 　　・B医師（10,000円）＋E医師（10,000円）

　 　　・B医師（10,000円）＋C助産師（5,000円）

・F助産師（7,000円）＋C助産師（5,000円）

**③２人以上の医療従事者が分娩を取り扱い、支給する手当金額の合計が10,000円の場合**

**（１分娩あたり２人以上に分娩手当を支給し、その合計が10,000円の場合）⇒パターン③**

【例】・A医師（5,000円）＋G医師（5,000円）

パターン③に記入してください。

・A医師（5,000円）＋H医師（3,000円）

＋I助産師（2,000円）

**④２人以上の医療従事者が分娩を取り扱い、支給する手当金額の合計が10,000円未満の場合**

**（１分娩あたり２人以上に分娩手当を支給し、その合計が10,000円未満の場合）⇒パターン④**

【例】・A医師（5,000円）＋H医師（3,000円）

パターン④に記入してください。

・A医師（5,000円）＋I助産師（2,000円）

＋J助産師（2,000円）

**⑤定額の手当を支給する医療従事者が分娩を取り扱う場合⇒パターン⑤**

　 【例】・K医師（10,000円／１月）が１人で

年間30件の分娩を取り扱う場合

パターン⑤に記入してください。

　　　　・L医師（50,000円／１月）とM医師

（10,000円／１月）が２人で年間20件

の分娩を取り扱う場合

※①～④の【例】の（　）の金額は１分娩当たりの手当金額です。

※曜日や時間帯等で手当金額が異なる場合は、それぞれの手当についてパターンを分けて記入してください。

　⇒【例】のA医師は手当金額が20,000円の場合と5,000円の場合があるため、パターン①、②、③、④にそれぞれ記入しています。

※分娩手当を支給していない医療従事者は補助金の対象にならないため、分娩手当を支給している医療従事者の人数のみでパターン分けを行ってください。分娩手当を支給していない医療従事者のみで取り扱った分娩については、分娩件数に含めないでください。

【例】A医師（20,000円）＋Ｎ医師（分娩手当支給なし）

　→A医師（20,000円）が１人で取り扱う場合とみなし、パターン①に　記入してください。